

---

## 第 8 回 「区民と区との協働を進める懇話会」

日 時:2009 年 3 月 31 日(月) 15:30 ~ 16:30

場 所:品川区役所第 2 庁舎災害対策本部室

---

### 開会

#### 1. 懇話会報告書案の提出

##### 座長

- ・ 報告書の提出に先立ってご挨拶させていただく。品川区では新基本構想を策定したが、その中の 3 つの理念の 1 つとして「区民と区の協働で『私たちのまち』品川区をつくる」と掲げている。しかし協働といっても、一般の人にはなじみの薄い概念である。そこで昨年 5 月から計 8 回、様々な立場からご参加頂き、区との協働で考えるべきこと、注意すること、具体的な展開について議論を重ねてきた。
- ・ 議論が百出したため報告書では、品川らしさをどこに求めるか、協働といっても何を考えるか、などの論点を整理した。また、議論の様子が少しでも伝わるよう委員の思いもコラム的に掲載した。この思いを受け止めて、今後区民との協働を具体的に進めるにあたってのガイドブックとして使って頂きたい。

##### < 報告書提出 >

##### 区長

- ・ 長い間議論して提言を提出して頂き、ありがとうございます。これまで品川区では、協働といっても「それは何か?」と言われる状況があった。懇話会の名前も、協働懇話会では分かりにくいということで、「区民と区との協働を進める懇話会」という名前にした。最近、ワークライフバランスのような新しい言葉が用いられているが、分かりやすい言葉でなければ心にすっと入っていかない。皆さんの懇話会を通じて、協働という言葉が区民の心に少しすっと入るのではないかな。
- ・ 先日『わたしたちの活動紹介展』に参加させて頂いたが、皆さんがいきいきと暮らしていられることを感じた。かつては、区民が要求して行政が実現する、区民からの要望を行政が受け止めるのが住民参加だという時代もあった。また、区民が意思決定に関わることが求められた時期もあった。しかし私は両方とも住民参加ではないと思っている。特に後者は違う。区民の代表として議員や区長を選んで頂き仕事を委ねた上で、その仕事が市民の意向と違うならばリコールできる。つまり首長の仕事を見守っていただくことが意思決定である。
- ・ ただし、区民の皆さんは何もしていただくかなくて良いということではない。現在、課題がいろんなところで発生し、解決が迫られている。それら一つひとつに行政が関わっていたら少しも物事は進まないし、進んだとしてもいびつな形になるだろう。様々な課題に対して区民の方と一緒に解決することが、今後の行政に求められるスタイルであり、区民生活のスタイルだと思う。今回の懇話会では、区民の皆さんにどう協働に関わっていただけるか、どんな道筋が必要か、行政はどう働きかけたらよいかということをご検討いただいた。様々な課題に対して区民のみならずと一緒に立ち向かっていきたい。『わたしたちの活動紹介展』のブースを拝見して、力強く思った。報告をしっかりと受け止めて、協働しやすい環境を作らなければいけないと思う。また皆さんや、中村座長をはじめとする学識経験者のお知恵を拝借することになると思う。御礼の意味も込めてご挨拶させていただく。ありがとうございました。

## < 区長退出 >

### 座長

- ・ これまでと比べたら、忌憚のない率直な意見交換ができたと思う。委員の皆さんも、区民の皆さんに報告書がまとまった事実や意味合いを折に触れて話題にさせていただければと思う。

### 品川区

- ・ 無事、報告書の提出に至った。ありがとうございました。懇話会自体は、報告書を提出していただいたことで一旦の区切りはついた。ただし、懇話会のような議論を継続したいというご意見をいただいているので、メンバーを増やしながら今後も懇話会という形で設置したいと考えている。特に、平成20年度の懇話会はしくみづくりに関してご議論いただいたが、平成21年度の懇話会は具体的に取り組むべきことについて検討を進めたいと考えている。

## 2. 来年度の懇話会のあり方について

### 座長

- ・ 来年度のあり方について自由にご意見を頂きたい。

### 委員

- ・ 初めて懇話会に参加した時は、他の委員と一緒に「懇話会って何だろうか」と困惑したが、何回か重ねるにつれて皆さんと親しくなり、このような会があって良かったと思った。

### 座長

- ・ 委員会形式はどうしても硬くなる。まとまった意見を言わないと発言しにくい。ワークショップのやり方を取り入れるのも1つの方法だろう。議論の仕方も市民活動的に進めると良いのではないかな。

### 委員

- ・ 懇話会ではNPOの方から直に話を聞くことができ、興味深かった。皆さんのノウハウも活用させていただけると面白くなる。懇話会を通じて皆さんと打ち解けることができた。

### 委員

- ・ 懇話会ではすばらしい出会いがあり、私にとって良い思い出になった。

### 委員

- ・ 懇話会で話し合っただけで抽出された複数の課題について、各自がコラム形式で執筆した。しかし、報告書の中に明確な解決策が謳われているわけではない。行政にも取り組んで頂きたいが、懇話会としても、いくつかの課題についてワークショップの形で深掘りしていけると良いと思う。

### 委員

- ・ 来年度の懇話会では、次に何をやるのかを検討するのが大事である。どんな解決策があるのか自由に意見を出して、実現可能なものに重点的に取り組むという進め方をしないと、具体的にならないと思う。

### 委員

- ・ いろんな区民活動と区が協働を進めるにあたっては、協働に対して、区職員全体にも協働に関わる担当と同じような意識を持ってほしい。各課の間で温度差があるとやりにくい。

### 座長

- ・ 区職員全員が報告書を読んでいるという状態を作っていけるように、庁内で検討して頂きたい。

### 委員

- ・平成 21 年度に、区民や区職員が参加しながら具体的に協働を進める場合、環境、教育、まちづくりなどの具体的なテーマを掲げる必要があるのではないか。

委員

- ・最初は NPO という存在そのものも分からなかったが、どんな活動をしているか知ることができた。

委員

- ・活動紹介展は、他の団体に声をかけそびれたり、内容で不十分な点もあつたりしたかもしれないが、何かをやるところから進めないといけないと思った。今後は、「今はたまたまこのメンバーだが、今後は一緒にしましょう」という形でネットワークを広げていけるとよい。

例えば、懇話会メンバーで話を深めつつそのメンバーの脇には多種多様な意見を持つ人たちが参集できるような仕組みとしてワークショップやテーマ別研究会などを徐々に作っていったらよいと思う。

座長

- ・ネットワーク型の活動では、場や機会を広げていくことで意識を高めていくことが重要である。それぞれのやり方で、関心を持つ人を増やして頂きたい。

委員

- ・話し合っていくうちに深く知り合えて、いろんな考えがあることが分かった。こういったネットワークづくりが欠かせなくなってきたと思った。

委員

- ・議論を始めて 30 分間で来年度のやり方についても、ほぼ方向性が決まってきたことに驚きを感じる。

座長

- ・短い時間で決まっていくのも平場の議論の良さだ。これまでの 7 回の議論の蓄積があつてこそその成果だと思う。

### 3.わたしたちの活動紹介展報告

資料説明 品川区

閉会

座長

- ・懇話会を始めるにあたり、最初の 2~3 回はお互いの話が伝わらなかつたりするだろうと予想していた。実際そのようなこともあつたが、私が予想していた以上にその後の議論の重なり合いが早かつた。これはひとえに、委員の皆さんが持っている市民力、底力の成果だと思う。
- ・懇話会の座長役を務めさせて頂いたが、大変有意義な役をさせて頂いたと感じる。以上をもって、第 8 回懇話会を閉会させて頂いた。ありがとうございました。

以上